

FDI (フル デジタル イノベーション) 誌上展示会 2020 (PART II)

メディアテクノロジー関連 WEB サイト情報 (May)

為ヶ谷 秀一

展示会やイベントで発表される情報を、インターネット上のウェブサイトと紙媒体である雑誌との連携を図り、夫々が必要とする適切な情報の取得に活かす取り組みとして、筆者の所に送られてきた e-mail や web 情報の中から、メディアテクノロジーに関連するトピックスをピックアップして紹介する。

2020 年 4 月 13 日

「NAB Show Express について」

NAB CEO ゴードン・スミス氏より提案 (3 月 21 日) されていた、「NAB Show Express」オンライン・プログラムの詳細が発表されました。

オンライン・イベントは、5 月 13 日 (水) から 14 日 (木) に亘って開催される。

「Keeping Our Community "CONNECTED"」

このプラットフォームは、ラスベガスのコンベンションセンターで開催されていた NAB Show のエッセンスを、インターネット上で参加者に無料で 24 時間提供し、コミュニティの絆を深めることを目指しています。

イベントへの登録は、4 月 20 日より始まっています。

https://dir.nabshowexpress.com/8_0/login/login.cfm (登録 URL)

5 月 13 日 (水) には、メインステージ基調講演として、例年の NAB Show オープニングと同様に、NAB 会長ゴードン・H・スミス氏による「State of the Broadcast Industry」(放送業界の現状について) の講演と共に。ゲストとの対談が

予定されています。

セッションとしては、

・Broadcast Engineering And IT

(テクニカルプレゼンテーションでは、IT や IP ベースのシステムへの移行など、今日のメディア関係者が直面している課題を議論する)

・Future of Cinema

(SMPTE が主催するデジタルシネマに関連するセッション)

・Digital Future

(デジタルメディアのプラットフォームに関するビジネスモデルにフォーカスしたセッション)

・Future Media Conference (FMC: 有料)

(プロダクションやポストプロのプロフェッショナルに対するオンラインのトレーニングプログラム)

など、ラスベガスで開催する予定だった NAB Show 2020 で企画されていたセッションの中から、100 以上のセッションが web 上で開催される予定です。

(関連する web サイト)

<https://nabshow.com/express/>



2020 年 4 月 24 日

「世界最大のコンピュータグラフィックス (CG) 学会 SIGGRAPH 2020 を、“健康と安全”のために中止、バーチャル・コンファレンスに移行すると発表」

7 月 19 日から 23 日、アメリカ・ワシントン DC で開催予定の ACM (Association for Computer Machinery)

SIGGRAPH 2020 が、開催を予定していたワシントン・コンベンションセンターが、COVID-19 に対する医療施設に指定されたことにより、同所での開催を中止すると発表しました。

SIGGRAPH は、コンピュータグラフィックスとインタラクティブ技術に関する世界最大のコンファレンスで、昨年はロスアンジェルスコンベンションセンターで開催された大会で、18,700 名の参加者がありました。SIGGRAPH 大会は、例年米国内やカナダのバンクーバーで開催されて来っており、米国東海岸のワシントンで開催されるのは初めてでした。

既に学会において発表されるテクニカルペーパー (論文) は、124 件が採択されています。他の分野における採択論文は、ACM 学会誌等で発表されますが、今後開催を予定しているバーチャル・コンファレンスで、どのようなフォーマットで発表が行われるのか注目されます。詳細は近日中に発表される予定です。

SIGGRAPH のローカルチャプターとして活動している「シーグラフ東京」も、バーチャルで開催される SIGGRAPH 2020 に向けて、積極的に取り組みを進めて行くとしています。



(関連する web サイト)

<https://s2020.siggraph.org/attend/health-and-safety/>

Hideichi Tamegaya

メディア・テクノロジー・コンサルタント

オタリテック

PHONAK roger

Phonak『Roger™』ワイヤレス・コミュニケーション・システムは、ライセンスフリーの2.4 GHz 帯を利用したデジタル・ワイヤレス・イヤープース・コミュニケーション（送り返し）システム。

補聴器メーカーとして世界的に有名なPhonak社の技術を用いて開発されたストレスフリーで小型のイヤープース型受信機、低ノイズで高いサウンド・クオリティ、簡単な設定を特徴とし、様々なアプリケーションで演出の邪魔にならずに最適なスタジオ・コミュニケーションを提供している。

なおPHONAK社は、スイスに拠点を置き、創立から70年という歴史を持つPhonak社はデジタル補聴器のグローバル・ブランドとして名高く、同社の補聴器システムは全世界100カ国以上で利用されている。

世界最先端の補聴器メーカーとして培った技術をベースに開発されたイヤープース型のコミュニケーション・システム『Roger™』は世界中のブロードキャスト、カンファレンス、博物館などの現場で使用されており、イヤープース・ヘルスケア・ブランドとしてスタートしたPhonak社のテクノロジーはコミュニケー

ション・ツールとしても世界的な信頼を得ている。

Roger™ BaseStation



ライセンスフリーの2.4 GHz 帯を利用
XLR / 6.3 mm オーディオ・バランス入力（コンボ端子）

LED 入力レベル・メーター

-14 ~ +12 dB のボリューム調整

有効範囲：15 ~ 40 m

ウォールマウント/ ラックマウントが可能

寸法・重量：132 × 132 × 44mm、488g

Roger™ Earpiece

Phonak 社補聴器システム
の技術を用いたイヤープース

全長18 mm のマイクロ・サイズ

重量1.3 g の超軽量設計
（バッテリー含）

最大 100 dB SPL

1つのネットワーク内に無限に接続可能な設計

簡単な取り扱いとクリーニング

最大12時間のバッテリーライフ

通信ネットワーク範囲外になった際には警告音で知らせる。



Roger™ TouchScreen Mic

ライセンスフリーの

2.4GHz 帯を利用

接続されている個々の

『Earpiece』のボリュームを

独立してコントロール可能

ハンドヘルド・マイク内蔵

タッチスクリーン・メニュー

（日本語表示可能）

『TouchScreen Mic』と

『Earpiece』のみでの通話も可能なサブ・ネットワーク設定あり

最長10時間の動作時間

作動範囲：15 ~ 40 m

充電式リチウム・ポリマー・バッテリーでの駆動

寸法・重量：104 × 55 × 16mm、94g

Roger™ Repeater

『BaseStation』⇄

『Earpiece』間の接続距離

を延長させたい場合や死角

となるエリアがある場合に使用

『TouchScreen Mic』と

同一サイズの筐体を用いた設計



- サブネットワークモードへ切り替えること
- とでマイクとワイヤレス・レシーバーは
- ダイレクトに接続可能

Phonak Roger ▶

http://www.otaritec.co.jp/products/phonak_roger/index.html



朋 栄

2020年代に入り、放送局の設備はIPを活用した制作環境への移行も視野に入れた動きになってきている。朋栄は従来から取り組んでいるベースバンド製品の12G対応モデルを拡充すると共に、IP対応製品のラインアップの充実を進めている。2020 NAB Showでは、「ライブ制作ソリューション」および「リモートプロダクション」に活用いただけるソリューションを展示予定だった。

ビデオスイッチャーHVSシリーズを中心としたシステムインテグレーションはライブ制作に最適なソリューションとなる。3M/EビデオスイッチャーHVS-6000とルーティングスイッチャーMFR-6100による12G-SDIソリューションは、昨年、米国オーケストラアカデミーのNew World Symphonyに同様のシステムを導入いただき、本拠地であるフロリダ州マイアミのNew World Centerで活用されている。

HVS-6000は、全入出力で12G-SDIに対応しており、最大80入力/32出力または64入力/48出力を実現。フレーム同期、フレームバッファ、3D DVEのほか、M/EごとにDVE機能と4つのDSKを備えた4つのキーヤーを提供。オプションにより、SFPコネクタを持つIPインターフェースHVS-

6000IP-8IOも取り付け可能。New World Symphonyは、リモートコントロールルームのメインのスイッチャーコントロールパネルにHVS-33550Uを採用し、複数個所でスイッチャーを同時使用するためにHVS-2120ROUコントロールパネルを追加している。

コンパクトな4Kライブ制作用としては、1M/EビデオスイッチャーHVS-1200/ルーティングスイッチャーMFR-1000による12G-SDIソリューションを活用可能。また、スポーツ演出用途には複数のタブレット端末からも書き込み可能なビデオライターFVW-700や、タッチパネルの操作性を活かし直感的にリプレイ映像を作成可能なVariant Systems Group社のリプレイシステムEnvivo Replayを活用いただける。

「IPソリューション」としては、SMPTE ST 2110に対応したフルIPソリューションと、遠隔地と連携した制作に必要となるリモートプロダクション(REMI=Remote IP Integration)を紹介予定していた。新製品のIPマルチビューワーMV-1640IPはシステム内でのIP素材の確認に最適。SMPTE ST 2110リダンダント環境のIPストリームを最大4K 4入力又はHD (1.5G/3G)



New World Symphony リモートコントロールルーム



IPマルチビューワー MV-1640IP

16入力(全て非圧縮可能)することが可能。出力は12G-SDI及びHDMIに対応し、4Kモニターにフリーレイアウトする事ができる。ストリーム切替えにはNMOS IS-05を使用。SFP28モジュール対応により、10GbE/25GbEどちらの環境でも利用できる。HD-SDIダウンコンバート出力も搭載し、従来の朋栄マルチビューワーと同等機能のレイアウトマネージャ、外部I/F、監視も含めたプロトコルに対応。既設ベースバンドシステムの機能、操作性を保ちながらIPシステムを構築するのに最適な製品となっている。



www.for-a.co.jp

ノイトリック

InterBEE2019では「NA2-IO-DPRO」や「opticalCON DRAGONFLY」を展示。

opticalCON DRAGONFLY(オプティカルコンドラゴンフライ)は従来の一般的なハイブリッドカメラ信号伝送システムよりも堅牢で信頼性が高く、保守が容易。特許取得済みのXB2テクノロジーを採用したファイバーレンズにより、最小限の損失で非常に堅牢な信号伝送を実現している。また、光学接続部分はレンズとシーリングカバー(オプション)により、汚れや埃に強くなっている。

NA2-IO-DPROは2イン2アウト、発売以来好評のNA2-IO-DLINEと同じサイズにヘッドアンプ(ファンタム電源搭載)、AES/EBUコンバーター、Danteネットワークの冗長化、デジタイズチェーン対応等様々な機能を搭載しており、ラバープロテクションカバーを外せばラック、机、天井にマウン可能。カバーを付けければステージ上に直接置いても安心して使用できる。



opticalCON DRAGONFLY

マイクのゲインやファンタム電源、パッド、ラインアウトのボリュームやミュート設定はMacまたはWindows PCより専用コントロールソフトウェアで操作可能。AES/EBUはインプットの2番に信号を入力すると自動的にAES/EBUモードに切り替わる。

NA2-IO-DPROの背面パネルには、ノイトリック製イーサコンを使用したプライマリおよびセカンダリDanteポートがある。

セカンダリ入力は、冗長化(リダンダント)モードまたはスイッチモード(デジタイ



チェーン用)のいずれかに設定できる。60WのPoEを使用した場合最大8台、30Wの場合は最大4台までデジタイズチェーン接続が可能。

NA2-IO-DPROはNA2-IO-DLINEと同様にAES67に準拠しており、電源供給は外部のPoEスイッチもしくはPoEインジェクターから行う必要がある。

▶ <http://www.neutrik.co.jp/>



ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン

ソリッド・ステート・ロジック・ジャパンは、InterBEE2019 では、System T S500 (x 2 台)、System T S300 を紹介。

Network I/O HC Bridge SRC、Live L550、Live L100

AWS Delta 948、XL Desk、SiX、Fusion X-Rack

System T は Native AoIP デジタルコンソールで、Dante HC を採用。7.1.4 までの Immersive Audio 制作。AES 67、SMPTE 2110 ネットワーク対応。VR 制作用のプラグインツール内蔵。ポストプロダクション用の DAW コントロール、ダイナミックオートメーション機能を搭載している。

S500 は 16 フェーダーから 288 フェーダーまでのフレーム構築が可能とし、S300 は 16 フェーダーまたは 32 フェーダーフレームとなっている。

Live L550 と L100 は PA 用デジタルコンソール。L550 は昨年 L500 からバージョンアップを行った。

アナログ機器は、アナログコンソールと



S500 は 16 フェーダーから 288 フェーダーまでのフレーム構築が可能としている。

DAW コントロールを融合した AWS Delta 948、アナログプロセッシングエンジンの Fusion、XL-Desk、デスクトップミキサー SiX を紹介。

www.solid-state-logic.co.jp



7.1.4 までの Immersive Audio 制作
AES 67、SMPTE 2110 ネットワーク対応

エーティコミュニケーションズ

エーティコミュニケーションズは衛星に関する多種多様な製品を扱っているが、衛星中継車の設計・製造も行っている。InterBEE2019 のブースでは、トヨタハイエースをベースにした SNG 車を展示していた。通常このタイプの車をベースにした場合、乗車定員は 3 名程度であるが、今回展示していた SNG 車は定員 5 名である。座席に工夫があり、運転席側の背もたれをハンドル側に倒すということでオペレーション空間を広く取れるようになっている。基本的な仕様は、衛星アンテナに“SWE-DISH DA-120”を搭載し、6KVA・



ノートパソコンサイズの“Satcube Ku”



NMG 電源システムを採用している。また、ポータブル型ブロードバンド衛星端末“Satcube Ku”はノートパソコンサイズで重量は 8kg と超小型で軽量なので飛行機内に持ち込み可能で、専用バックパックでの運用もでき、ホットスワップ対応のバッテリー交換も可能である。伝送レートは

15Mbps と広帯域でモバイル中継装置との連携も可能で、衛星の補足も数分で完了する。

<http://www.bizsat.jp/>



キヤノン・キヤノンマーケティングジャパン

キヤノンは、映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、新開発の「DGO センサー」採用により広いダイナミックレンジを実現するとともに、4K/120P のハイフレームレート記録に対応したデジタルシネマカメラ「EOS C300 Mark III」を2020年6月下旬に発売すると発表した。

新製品は、映像制作や放送用コンテンツ制作など、さまざまな撮影現場で好評を得ている「EOS C300 Mark II」(2015年9月発売)の後継機種。従来機種から基本性能を刷新するとともに、上位機種「EOS C500 Mark II」(2019年12月発売)と同じく、ユーザーが撮影現場に応じて自由にカスタマイズできるモジュールデザインを採用し、幅広い映像コンテンツの制作に対応している。

また、EF シネマレンズの新製品として、CINE-SERVO レンズ「CN10 × 25 IAS S/E1 (EF マウント)」と「CN10 × 25 IAS S/P1 (PL マウント)」を、2020年7月上旬に発売。8K カメラに対応する光学性能と高倍率の10倍ズームを実現し、1.5倍のエクステンダーをレンズ本体に内蔵した「CINE-SERVO レンズ」シリーズのEF シネマレンズ。8K カメラに対応する高い光学性能を生かして、4K カメラでも高品位な4K 映像の撮影

ができる。肩担ぎが可能な軽量設計に加え、放送用レンズ同様の操作性を実現する着脱可能なドライブユニットを標準装備しており、放送コンテンツ制作用途から、映像制作用途まで幅広いニーズに対応としている。

さらに、業務用4K ディスプレイ2製品(DP-V1710/DP-V1711)を対象に、高輝度化を実現するファームウェアの有償アップグレード対応を2020年6月下旬に開始するほか、業務用4K ディスプレイ7製品(DP-V1710/DP-V1711/DP-V2410/DP-V2420/DP-V2421/DP-V2411/DP-V3120)を対象に、各種機能・性能の向上を図るファームウェアを2020年6月下旬より無償提供する。

キヤノンの業務用4K ディスプレイは、映像制作現場のニーズに対応するファームウェアの提供により、これまで定期的な機能を拡充している。2018年6月から提供しているHDR モニタリングアシスト機能は、業界で権威のあるHPAの2018エンジニアリング・エクセレンス・アワードを受賞するなど、ユーザーからも定評がある。今回のファームウェア提供により、ユーザーの利便性をさらに高め、映像制作現場を強力に支援する。



キヤノンお客様相談センター
050-555-90006

●CINEMA EOS SYSTEM
ホームページ
canon.jp/cinema-eos



●ディスプレイホームページ
: canon.jp/v-display



モガミ電線

放送局、レコーディングスタジオ、公共ホール等の業務用オーディオ・ビデオ及びコンピュータのインターフェース・ケーブル等を開発し、販売を行う同社では、定評のある柔軟かつ機械的強度に優れたケーブルや、基礎・基本的な工学技術に於いて他社を凌駕する技術情報の蓄積を活かした付加価値の高い製品作りを行なっている。

このような高度な技術を活かし、イーサネットケーブル、BNC コネクタ付き同軸ケーブル、110 Ω AES/EBU デジタルオーディオ・マルチケーブル、吊りマイクケーブル、

0.226mm² ステレオマイクケーブル、高解像度チューブ・マイクロフォン・ケーブルなどを主力製品としている。

InterBEE2019 での同社ブースでは、ケーブルの違いによるギターの音色の違いを来場者に実感してもらうテストが行われ、注目を浴びていた。

そのほか、3極⇄5極変換アダプター、120 Ω ターミネーター、RoHS 対応の「DMX シリーズ」アクセサリや、アメリカBTX社のネジ止め方式のコネクタ「ターミナルブロックコネクタ」などを紹介した。



▲試験テストに使用されたケーブル

試験テストを行なった来場者▲

www.mogami-wire.co.jp



mogami BNC-2964

もう回す必要はありません! BNCコネクタ付き同軸ケーブル

共に高品質な部品を提供し続けてきたモガミ電線と多治見無線電機の組み合わせで実現されたフィールドエンジニアの為の夢のケーブルです。50Ω/75Ωの両タイプ共あります。

ワンタッチロック「PUSH-PULL」方式採用! 密集したパネルや設置時間の短縮、頻繁な抜き差しに格段の効果を発揮します。

お問い合わせ

モガミ電線株式会社

モガミ電線株式会社 PHONE: (0263) 52 0131 E-MAIL: sales@mogami-wire.co.jp URL: <http://www.mogami-wire.co.jp>



Click
カチッ

軽い! やわらかい! ワンタッチ!



フォービット

《オーディオミキサー/マトリックス》

《NEW》12×10 ポータブルデジタルオーディオミキサー「PMX-1210」:アナログライクな操作性のポータブルデジタルオーディオミキサーで、EIA19 インチラックに実装可能なW420 x H160 x D460 のサイズ。デジタル(AES-3id)/アナログ信号混在の12x10 デジタルオーディオミキサー。

EIA19 インチラックに実装可能で、INPUT はデジタル/アナログ入力モノラル8 系統、アナログステレオ入力、ステレオリターン入力各 2 系統。モノラル入力/ステレオ入力は、デジタル(AES-3id) 入力と切換え使用が可能。モノラルチャンネルは、2 タイプのHPF/LPF、2 タイプのコンプレッサー、3 バンドのEQ が使用可能。

2 系統のマスター出力とバス出力は、デジタル(AES-3id) とアナログL/R にて出力。AUX 出力はアナログL/R が 1 系統、モノラルが 2 系統。デジタル(AES-3id) で選択出力可能。マスター及びバス出力はラウドネス値の計測が可能。モニター出力はL/R アナログ 1 系統が使用可能。

コミュニケーション入力 1 系統、TB 及び PFL 信号(択一選択)の外部出力 1 系統使用可能。ダイレクトアウト 1 系統(アナログ 8 チャンネル)。内蔵TB マイク及びモニタースピーカー搭載。同期信号は、入力AES 信号、WORD、VIDEO 信号(NTSC/PAL を自動切換え)が選択可能。本機を2 台接続し、カス

ケード接続による入力チャンネル増設可能。

32 × 20 アウトプットマトリックスユニット「MTX-2420」:SDI エンベデッド音声・デジ・アナ混在入力可能/ラウドネスメータ機能、ダウンミックス機能を搭載。

6 × 6 オーディオマトリックス

ミキサー「MTX-0606」:デジ・アナ混在入力、AC・DC 電源併用、カスケード接続可能。

《MADI, 22.2 マルチチャンネル音響 関連機器》

22.2ch 音響アップ/ダウンコンバータ「T-1508」:MADI 入力×1 系統、デジタル入力×4 系統、MADI 出力×2 系統(パラレル出力)、デジタル出力×4 系統、デジタルモニター出力×1 系統/モノ/ステレオ⇒22.2ch 音響にアップコンバート/22.2ch 音響⇒5.1ch⇒ステレオにダウンコンバート

22.2ch 音響ラウドネスメータユニット



22.2ch 音響アップ/ダウンコンバータ「T-1508」

「LM-22」:22.2ch + 5.1ch + 2ch を 3 系統同時ラウドネス計測。

MADI ディレイユニット「MD-64」:最大6秒×64ch

MADI ディストリビューションアンプユニット「MDA-8」

30 ポイント MADI 32ch バーグラフメータユニット「MB-532」:MADI 信号(AES-10)の音声レベルを表示する30 ドット32 チャンネルのバーグラフメータ。「SELECT」スイッチにより、MADI 信号の「1 ~ 32ch」/



「33 ~ 64 ch」の表示を切換えることが可能。

《3G/HD/SD-SDI エンベデッドオーディオモニター》

MADI オーディオモニター「MS-564」:MADI 信号を直接入力してオーディオモニター可能。22.2 から 5.1 およびステレオへのダウンミックス機能(専用デジタル出力装備)。上記ダウンミックスのモニターも可能。ダウンミックスの係数設定を、5.1 およびステレオともに3 パターンプリセット可能。入力素材やダウンミックスを自由に割り当て可能なMADI 出力(電源OFF 時は入力スルー)。

3G/HD/SD エンベデッドオーディオモニ

ター「MS-822V」:VU メータ搭載。エンベデッド音声、デジタル音声、アナログ音声に対応。

3G/HD/SD エンベデッドオーディオモニター「MS-832」:AC 電源または DC+12V 電源から選択。可搬型コンパクトステレオモニタースピーカ W158 × H86 × D130mm



<http://www.fourbit.co.jp>



ますます多様化するフィールド で応える柔軟さと確実性

FB
FourBit

株式会社
フォービット

〒358-0014

埼玉県入間市宮寺 2720

TEL : 042-934-7720

FAX : 042-934-5664

TEL : 042-935-0551 (営業部直通)

URL : <http://www.fourbit.co.jp>

PMX-1210

12 × 10 ポータブルデジタルオーディオミキサー
税抜価格 ¥1,950,000



- アナログライクな操作性
見た目の安心感
- EIA19 インチラックに
実装可能
外形寸法 W420 ×
H160 × D460
- カスケード接続による入
力チャンネル増設
- AC 電源と DC+12V 電
源併用によるリダンダン
ト動作
- マスターアウトのラウド
ネス計測機能
- TB マイク、モニタース
ピーカー内蔵
- ビデオ同期/ワードク
ロック同期/デジタル入
力同期

アイ・ディー・エクス

株式会社アイ・ディー・エクスは、長年にわたり、放送・映像業界において、リチウムイオンバッテリーをはじめ、充電器の開発、販売をしており、現在では放送・映像業界ではリーディングカンパニーとして評価されている。

この度は、この業界で培った知識と経験を活かした新製品のポータブル電源を紹介する。撮影現場において、発動発電機を電源として使用するケースが多いと考えられるが、騒音や排ガスの問題がある。

ポータブル電源はリチウムイオンバッテリーを搭載しており、音はほとんど出ないし、排ガスも一切、排出はしない。発動発電機の使用ができない室内や夜間の住宅街などでも力を発揮する。夜間の中継、住宅街、室内等での撮影向けの電源として使用できると考えている。機器の管理面において、発動発電機の場合はガソリンなどの燃料の保管管理、エンジンのメンテナンス等、資格や知識が必要で煩雑な管理が必要となるが、ポータブル電源の場合は定期的にコンセントから充電する

のみ、発動発電機のような燃料の管理やエンジンのメンテナンスのような作業は不要。誰でも簡単に管理を行える。また、1Kwh クラス、3Kwh クラスについては、キャスターやハンドル付きで移動も容易、さらに UPS 機能を搭載しており、日常は UPS として、非常時は非常用電源としても使用できる、コストパフォーマンスの高いポータブル電源となっている。

現在のラインナップは、容量別に 300wh クラス、1Kwh クラス、2020 年 4 月以降にリリース予定の 3Kwh クラスがある。

<ポータブル電源のラインナップ>

コンパクトな卓上型ポータブル電源で 300Wh クラスの「IPS-300AU」

出力:AC100V × 1 (正弦波)、USB (DC5V) × 3 口、TYPE-C (PD 対応) × 1 口、シガーライター (DC12V) × 1

特徴：小型卓上型ポータブル電源ながら、AC 出力と DC 出力両方に対応。

キャスター付きで移動も容易な 1Kwh クラスの「IPS-1000A」



出力：AC100V (正弦波) × 2

特徴：強力インバータで 1Kw (ピーク 2Kw) の出力

キャスター付き、ソーラー充電対応 1Kwh クラスの「IPS-1000AS」

出力：AC100V (正弦波) × 2

特徴：強力インバータ出力とソーラー充電対応。

2020 年 4 月以降にリリース予定の 3Kwh クラスの「IPS-3000A」

出力：AC100V (15A) × 3 口、AC100V (30A) × 1 口 (すべて正弦波)

特徴：3Kw 出力 (ピーク 6Kw) の強力インバータ搭載。

<https://www.idx.tv/jp/>



ネットワークエレクトロニクス

同社では、Digital Nirvana(デジタル ニルヴァーナ)社「Minitor IQ」(モニター IQ) を国内初公表。Monitor IQ は、Volicon Observer (ポリコン オブザーバー)に代わるデジタル ニルヴァーナ社法定同録装置である。Debian Linux ベースの web サーバーアプリケーション製品である SDI ベースバンド及び TS、IP など多くの入力方式に対応した長時間録画と軽快なファイルハンドリング機能を持つマルチチャンネルモニタリング機能を実装。同録、モニター、レポート、ファイル変換・転送が可能。データ解析、ソーシャルメディア向けやOTT、ストリーミングサービスとの連携が可能となっている。



また Nevion 製品では、Live IP メディアコントロール & オーケストレーション、多機能メディアプロセッサ・ゲートウェイ、IP/ベースバンド・ハイブリッド・システムインテグレーション「VideolPath/Virtuosol」を紹介 (写真上)。

BRIDGE TECHNOLOGIES 製品では、IP ×



ディアモニタリング監視、集信/ 配信メディア監視、非圧縮ベースバンド、TS 圧縮ビデオオーディオメディア「Stream Labs」を紹介。そのほか、CHYRONHEGO センサーレスリアルタイムバーチャルグラフィック合成システム「VIRTUAL PLACEMENT」などの展示も行なった。

▶<https://network-electronics.co.jp/>



digital nirvana™

Monitor IQ

「法定同録だけじゃない」

放送事業者は、幅広い規制およびコンプライアンス要件を満たすために、放送コンテンツに関する知識を収集して使用する必要があります。Digital Nirvana の MonitorIQ は、放送事業者がコンテンツの記録、保存、監視、分析、再利用を可能にする安全で使いやすいソリューションを提供いたします。

Volicon Observer ブロードキャストモニタリングおよびコンプライアンスログ製品の販売終了の発表により、Digital Nirvana は Volicon の顧客が次世代のブロードキャストモニタリングおよびコンプライアンスログプラットフォームにスムーズに移行できるよう支援いたします。

製造元：

digital nirvana digital-nirvana.com

輸入販売元：

ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社

リーダー電子

「LV5900」8K 対応波形モニター、「ZEN シリーズ」に追加された 4K-IP (25G) モニター / ジェネレーター、「LT 4610」の 8K 対応は、今後の国内・海外需要に適應させたあらゆるユーザー層に推奨しうる製品。

また、イギリスの世界的な映像、音響、放送測定器メーカーである PHABRIX 社が当社の仲間になり、製品ラインナップが強化された。さらに、新しい試みになるクラウド環境を利用したコンテンツヘルスチェッカーを開発した。このような多様化するニーズに対応しうる製品を一堂に展示した。

◇ LV5900 8K 波形モニター



8K/4K/2K 映像フォーマット

- ・ 波形 / ベクトル / ピクチャー / オーディオ / アナライズ / ジェネレーター機能
 - ・ MADI 入力対応 ・ 液晶サイズ: 9 インチ
 - ・ 4U ハーフラックサイズ
- ▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/waveform/lv5900/>

◇ LV5600 2K/4K/IP/4入力波形モニター

- ・ 4K 12G SDI & 4K 25G IP ハイブリッド



- ・ 波形 / ベクトル / ピクチャー / オーディオ / アナライズ / ジェネレーター機能 / 簡易字幕機能
 - ・ 液晶サイズ: 7 インチ
 - ・ 3U ハーフラックサイズ
- ▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/waveform/lv5600/>

◇ LV7600 2K/4K/IP/4入力ラスタライザー



- ・ 4K 12G SDI & 4K 25G IP ハイブリッド
 - ・ 波形 / ベクトル / ピクチャー / オーディオ / アナライズ / ジェネレーター機能 / 簡易字幕機能
 - ・ 1U フラックサイズ
- ▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/rasterizer/lv7600/>

◇ LV5300/LV5350



2K/4K/2入力 波形モニター

- ・ LV5300 EYE 付き
- ・ LV5350 EYE 無し
- ・ 波形 / ベクトル / ピクチャー / オーディオ / アナライズ / ジェネレーター機能 / 簡易字幕機能
- ・ 液晶サイズ: 7 インチ
- ・ 3U ハーフラックサイズ
- ・ 電源: DC10V ~ DC18V

▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/waveform/lv5300/>

▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/waveform/lv5350/>

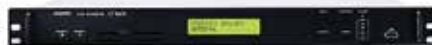
◇ LV7300 2K/4K/2入力 ラスタライザー



- ・ SDI & IP ハイブリッド
- ・ 波形 / ベクトル / ピクチャー / オーディオ / アナライズ / ジェネレーター機能 / 簡易字幕機能
- ・ 1U フラックサイズ

▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/waveform/lv7300/>

◇ LT4610 ジェネレーター



- ・ アナログブラック同期信号出力
- ・ ゲンロック機能
- ・ GPS/PTP/12G 4K オプション
- ・ 2 重化電源

▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/sg/lt4610/>

◇ LT4448 チェンジオーバー



- ・ 入出力 BNC11 組、LTC のチャンネル
- ・ 対応信号: SDI 信号、NTSC / PAL ブラックバースト信号、HD 3 値同期信号、AES / EBU デジタルオーディオ信号
- ・ ワードクロック信号、LTC 信号
- ・ 2 重化電源・異常アラーム

▶ <https://www.leader.co.jp/products/broadcast/sg/lt4448/>



◇ クラウド型QC [参考出品]

- ・ 動画・音声を含むコンテンツの異常をチェックするクラウドサービスです。
- ・ コンテンツの異常と思われる部分を抽出します。
- ・ 複雑なパラメーター設定は必要ありません。

◇ LF965 4K/8K 対応レベルメーター



日本国内における高度広帯域衛星デジタル放送 (4K / 8K 放送)、衛星デジタル放送 (2K 放送)、および地上波 / CATV デジタル放送に対応したレベルメーターです。

▶ <https://www.leader.co.jp/products/rf/lf965/>

◇ PHABRIX TAGC アナライザー / ジェネレーター



- ・ IP ST2110 / ST2022 対応
 - ・ コンポジットの入出力 (BB, 3 値対応)
 - ・ ビデオ信号発生器 3G/HD/SD-SDI
- ▶ <https://www.leader.co.jp/products/resale/sx-tag/>

◇ PHABRIX QX



ハイブリッド IP/SDI、4K/UHD、HDR/WCG 世代の高度なラスタライザー

▶ <https://phabrix.com/ja/products/qx/qx-series/>

◇ VB440 高性能 IP トラフィック監視装置



- ・ 高ビットレート IP メディアトラフィック監視
- ・ QoS (Quality of Service)
- ・ デュアル 100 ギガビット
- ・ ST2110 / ST2022-6 非圧縮メディアをサポート
- ・ 8K / 4K IP サポート

▶ <https://www.leader.co.jp/products/resale/bridge-vb440/>

伊藤忠ケーブルシステム

伊藤忠ケーブルシステム、オンラインイベント【Virtual NAB 2020】を開催

伊藤忠ケーブルシステム株式会社（東京都品川区／代表取締役社長 土屋 健二）は、4月21日（火）、4月22日（水）の2日間にわたり、オンラインイベント【Virtual NAB 2020】を開催した。

「新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響から、ラスベガスで開催予定であったNAB Show 2020についても残念ながら無期延期となりましたが、このたび、伊藤忠ケーブルシステムでは、当社が販売代理店となります各社ベンダー協賛のもと【Virtual NAB 2020】と称したWebinarイベントを開催させていただき運びとなりました。

本WebinarではAWS Elemental社、MediaKind社をはじめ、Bitmovin社、Haivision社等、例年NAB Showに出展しておりますベンダーより、NAB Showで発表を予定していた各種最新情報をご紹介します。」

Webinarは無料登録制で、ZOOMによるセミナー形式で開催された。

以下にその概要と内容の一部を紹介する。

Virtual NAB 2020 開催概要

◆日時【DAY1】2020年4月21日（火）

12:45～13:00/イントロダクション

13:00～14:00/NetInsight（伝送）

14:00～15:00/CenturyLink（CDN/WebRTC）

15:00～16:00/Telestream（トランスコード/QoE・QoS）

16:00～17:00/BitmovinPlayer/Analytics（HTML5プレイヤー/視聴解析）

【DAY2】2020年4月22日（水）

10:00～11:00/Haivision（SRT対応伝送用エンコーダ・デコーダ）

11:00～12:00/ICS映像伝送Grpよりハイライト紹介（Synamedia/AppearTV）

13:00～14:00/Harmonic（プレイアウト・リニア配信用システム）

14:00～15:00/MediaKind（VOD・リニア配信用システム）

15:00～16:00/AWS Elemental（VOD・リニア配信用システム）

16:00～17:00/BitmovinEncoding（クラウドエンコーディング）

●主なセッション内容

< Net Insight >

◆パネラー Net Insight

Head Of Sales-Singapore Office

Chong Kok Leong 氏

ANZ Regional Sales Manager Reza

Rahimi 氏

◆概要

光映像伝送装置 Nimbra は、さらに大容量化し4K リモートプロダクションにも対応。公衆 IP 回線伝送を可能にしたシリーズ追加や、クラウドを利用した新サービスを紹介した。

< CenturyLink >

◆パネラー CenturyLink, Inc.

Director Gautier Demond 氏

Account Director Mackenzie Logan 氏

◆概要

CenturyLink が従来展開する CDN ソリューションに加え、昨秋買収した StreamRoot 社が有していた WebRTC による映像配信技術「メッシュソリューション」のシナジーを紹介。

< Telestream >

◆パネラー Telestream Inc.

Senior Solution Consultant Fan He 氏

◆概要

エンコーダのエントリー製品 Wirecast からハイエンドトランスコードワークフロー・Vantage や周辺システムまで幅広く展開する Telestream 社から今回が来る同時配信時代のサービス監視のひとつの解である IQ Solutions を紹介予定です。ヘッドエンドからデリバリーネットワークまでを統合的にモニタリングするソリューションの仕組みを紹介した。

< BitmovinPlayer/Analytics >

◆パネラー Bitmovin Inc.

Head of Player Christoph Prager 氏

Head of Analytics Daniel Balis 氏



Support Specialist Kazuhide

Yamamoto 氏

◆概要

いち新興エンコーダベンダから現在の映像配信インフラの牽引役まで成長した Bitmovin。

汎用性の高いHTML5 プレイヤと視聴解析ソリューションを紹介した。

< Haivision >

◆パネラー Haivision

VP Product Marketing Marcus

Schioler 氏

CCO & EVP, Strategic Partnerships

Peter Maag 氏

◆概要

SRT プロトコルの開発元として今や配信技術推進の一翼を担う Haivision 社より現在のユニークな製品から将来のロードマップまで紹介した。



<伊藤忠ケーブルシステム>

◆パネラー 伊藤忠ケーブルシステム

メディアサービス部 営業第1グループ課長

酒井 尚也

メディアサービス部 営業第1グループ

青木 隼一

◆概要

SDI over IP や最新コーデックのメーカー対応状況等、取り扱いメーカーの最新情報を紹介した。（Synamedia 社、AppearTV 社等）



< Harmonic >

◆パネラー Harmonic Japan 合同会社
シニア・プリセールス・エンジニア
吉田 靖之氏

シニア・セールス・エンジニア
池田 行宏氏

ゼネラル・マネージャー 田代 陽介氏

◆概要

プレイアウトシステムから OTT 設備まで
現在グローバルで進められている放送と



ネットの融合をもっともソリューションに
落とし込めている Harmonic から、ハイラ
イトを紹介した。



< MediaKind >

◆パネラー Mediakind
VP Product Management Stuart
Boom

◆概要

旧 envivio、旧 Ericsson Media Solutions
を経てエンコーダベンダとして実力を示し
続ける MedkiaKind 社によるソリューション
コンセプトを紹介。多くの事業買収の結
果、映像伝送から配信、次世代コーデック
や AI 技術を援用したビデオエンコーディン



グなど先端的な紹介をした。

< AWS Elemental >

◆パネラー アマゾン ウェブ サービス
ジャパン株式会社
ソリューションアーキテクト 小林 剛氏

◆概要

旧 Elemental 社の買収によりコンテンツ配信市場の中心プレイヤーに位置する AWS からオンプレミスとクラウドの融合による

End-to-End ソリューションのハイライト
を紹介する。



< BitmovinEncoding >

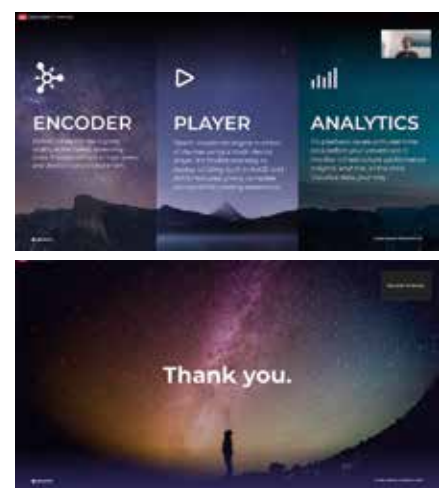
◆パネラー Bitmovin Inc.
Associate Product Manager Markus
Hafellner 氏
Support Specialist Kazuhide
Yamamoto 氏

◆概要

いち新興エンコーダベンダから現在の映像配信インフラの牽引役まで成長したBitmovin。

数あるエンコーダ製品の中からいま選ばれる理由を製品の特長から紐解く。

AV1 や VP9、3pass 方式や Per Title エンコーディングなど最新技術も紹介した。



関連 URL
<https://www.itochu-cable.co.jp/>

Espial (Enghouse Company)

Espial は TV 事業
者向け TVaaS 型ク
ラウドベースビデ
オ配信プラットフォーム「Elevate Cloud
IPTV」を提供している。



「Elevate Cloud IPTV」について

「Elevate Cloud IPTV」は、SaaS 型
ターンキーより一歩踏み込んだ TV as a
Service (TVaaS、ティバース) 型として
提供されるクラウド・ホスティング・ビデオ・
プラットフォーム・ソリューションで、バック
オフィス、android/iOS/FireTV などの
クライアント・アプリ、クラウド環境、サポー
ト、運用 / 監視、メンテナンスに至るまで、
TV サービスを一つのクラウド・ソリュー
ションとしてケーブル、テレコム、衛星放
送、OTT の TV 事業者提供される。また、
これらの全ては 1 カ所管理・制御ができ、
24 時間 365 日のフルサポート管理体制を
提供可能としている。

「Elevate Cloud IPTV」のクライアント・
アプリは非常に高速で、高度な UX をエン
ドユーザに提供する。また、マルチスクリー

ン対応で、クライアント端末選択の自由度
が高い。さらに優れた UI テンプレートを
ベースに簡単にカスタマイズやブランディ
ングが可能としている。

「Elevate Cloud IPTV」のノンストップ・
イノベーションによって短時間で運用を開
始でき、満足度の高いユーザー・エクスペ
リエンスを迅速にカスタマーに提供できる。

「Elevate Cloud IPTV」は高度で緻密な
ターゲット・プロモーションが可能でアッ
プセルやクロスセルに貢献する。

また、「Elevate Cloud IPTV」は高度な分
析機能、強力なセグメンテーションエンジ
ン、柔軟なプロモーション管理機能を搭載
し、同プラットフォームを導入した事業者
の収益と売り上げ目標達成に貢献する。

さらに、アクティブなオペレーターグルー
プあるいは MSO (マルチプル・システムズ・
オペレーター) 間で、マーケティングに関
する情報や、問題解決のための技術的なベ
ストプラクティスを共有 (マルチテナント)
することも可能で、システム全体のコスト
(TCO) が大幅に削減できる。

同プラットフォームは、既に北米で 40 以

TVaaS型ビデオプラットフォーム Elevate Cloud IPTV



上のケーブル、IPTV 事業者へ納入、稼働し
ており、あるケーブル事業者が IP-VOD を
新たにサービスとして加えるために、わず
か 60 日間でサービスインに漕ぎ付けたと
いう事例がある。TCO も同プラットフォー
ムを導入することにより、最大で 65% も
削減できた事例もある。

Espial は 2019 年 に
Enghouse グループの一員と
なった。強力なバックアップを
得てより良いサービスを事業者
様に提供する。



<https://www.espial.com/elevate-cloud-jp/>

【問い合わせ先】 エスピアル

金森 幸雄 Yukio Kanemori

Espial Group Inc. (Enghouse Company)

Mobile: 090-6128-7377

<http://www.espial.com>

ATV

ATV 株式会社は、映像スイッチャーやコン
バーターなどを製造販売している国内メー
カー。

【製品紹介】

4K Series



① HDMI2.0 2ch 4K 1M/E AV MIXER 『A-PRO-1』

4K60p 対応のミニマム AV ミキサー。2
入力 2 出力の最小構成、合成各種、静止画
STILL、4K/HD 間の UP & DOWN コン
バート、フレームレート変換、リモート制御、
複数台連動、信号断による自動切換、等々。

② HDMI2.0 4ch Multi-format Seamless Switcher 『AV-4K-4X1』

HDMI2.0、 HDCP2.2/1.4 対応、マルチ
フォーマット入力、ディゾルブ切替、4 画
面マルチビュー、P in P 等の設定をプリセッ
ト記憶、RS-232、IR、LAN によるリモ
ート制御、等

③ HDMI2.0 4ch SPLITTER with DOWN CONVERTER 『AV-4K-1X4』

④ HDMI2.0 to 12G-SDI Converter 『AV-4K-HS』

⑤ 12G-SDI to HDMI2.0 Converter 『AV-4K-SH』

2K Series



⑥ Video Converter 『AV-5S/AV-3 SERIES』

SDI と HDMI を繋ぐハイスpekコンバー
ター。フレームバッファ機能、各種ソース
に自動対応、外部シンクロ、音声入出力等。

今回の新型コロナウィルスの影響により、
様々なイベントの中止やテレワークの推奨
等で、ライブ配信や Skype などの遠隔コ
ミュニケーション手段が再注目されており、
これを契機に今後もこれらの手段が更に社
会に浸透していくものと思われる。

弊社の製品の中には、このような用途に適
した機能を搭載しているものがある。

(② 『AV-4K-4X1』 :PC や
Mac と直接接続してネット
配信や Skype などに使用で
きる機能)、デモ機の貸出し
随時。



<http://www.atvcorporation.com/products/videos/>

エスシーアライアンス

<Harmony Radio System>

20 年以上に及び全国 100 局を超える放送局への「DAD 自動運行システム」の販売、施工、サポートを行ってきた実績を基に、この度新しく国産のラジオ局向け放送自動運行システム「Harmony」を開発した。

「Harmony」はラジオ局に必要とされる自動運行システム (APS)、CM/ 番組再生 (DAF)、放送素材管理、音声スイッチャー、営放システム (EDPS) 更にスタジオ DAW の機能もオプションで追加できる、Windows PC ベースの総合放送システム。PC ベースの実機を紹介した。

<https://ss.sc-a.jp/harmony/harmony-basic-set/>

<Omnia 社製品>

Omnia MPX Node(新製品) : アナログ MPX 信号を直接 320kbps で IP 伝送するインターフェースユニット。

演奏所に設置したサウンドプロセッサのピークコントロールされた L/R 信号、パイロット信号を IP ストリームで送信所に伝送。更に、1 台の Omnia MPX エンコーダーは同時に複数の送信所の MPX デコーダーにも配信可能。MPX デコーダー出力を送信機の MPX 入力に直接接続ができ、クリアなサウンドを提供。

<https://ss.sc-a.jp/omnia/>

<Telos 社製品>

Infinity AoIP インカムシステム (新製品、参考出展) : AoIP 対応 (Livewire+, AES6 準拠) のインカムシステム。Axia 製の AoIP ネットワークコンソールシステムのユーザーは既存のオーディオネットワークをインカム用にも使用可能。

親機のようなセントラルマトリクスも不要でインカムシステムを構築。

<https://ss.sc-a.jp/TELOS/>

<Digigram 社製品>

IQOYA TALK(新製品) : 今後の 5G にも対応する IP ポータブルオーディオコーデック。中継用途やトークショーに最適なポータブルオーディオ IP コーデックで、1 台で最大 4 人のゲストにスタジオ品質のインタビューが可能。

<https://ss.sc-a.jp/Digigram/>

<BW Broadcast 社製品>

TX50V3 (新製品) : 5 ~ 50W 出力可変の FM 送信機「TX50V2」の後継機種。TX50V3 では FM 同期放送用送信機としても対応できるように 10MHz/1PPS シンク入力を備え、周波数の高安定度化、μSec



ステップのディレイ調整、パイロット信号の位相調整機能、MPX 出力ディレイ調整などが標準機能として追加。

https://ss.sc-a.jp/bw_broadcast/

<Inovonics 社製品>

米国 Inovonics 社は 40 年以上にわたって、高品質な AM/FM モジュレーションモニター、放送用オーディオプロセッサ、RDS エンコーダーを製造してきたメーカーであるが、本展では簡易 FM 放送監視チューナーの新製品「INOMINI 673」を中心に、FM 放送監視チューナー「650 AARON」、FM モジュレーションモニター「531N」などを紹介。

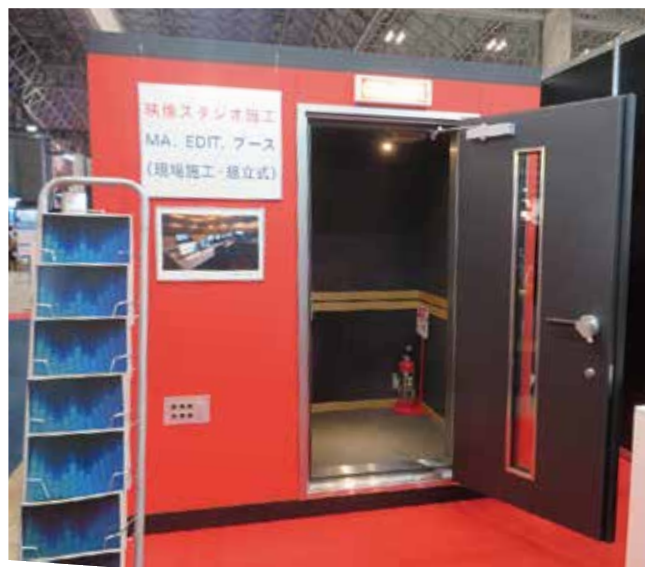
<https://ss.sc-a.jp/inovonics/>

高橋建設

高橋建設では、1979 年の創業以来、防音工事専門業者として自社による責任施工を貫き、日本全国で専門技術者が対応している。InterBEE2019 では、サイズが自由な簡易型アナウンスブースを展示。録音ブース・調整室・編集室・視聴室等で幅広く活用できる。

多様化する映像業界のクリエイティブワークを独自のシステムと、確かな遮音技術でフレキシブルにサポート。最近ではインターネット放送等が行われ防音室があると便利である。

www.takahashi-kensetsu.co.jp



映像スタジオ施工

多様化するデジタル映像環境に対応、映像スタジオ施工なら豊富な実績、直営システムに依る徹底したコストダウンを実現する

Takahashi Construction Co., Ltd.
SOUND PROOF
匠の技をスタジオに

MA室 ブース 各種 編集室

新設、リニューアルに関わらず何でもご相談ください。

〜映像・音響専門で
42年〜

(映像・音響・防音・建築・設計・施工)

一級建築士事務所

高橋建設株式会社

本社 〒216-0032 神奈川県川崎市宮前区神木1-7-8

TEL 044-853-0547 FAX 044-852-1588

(社) 日本ポストプロダクション協会会員 / (社) 日本音楽スタジオ協会会員
(社) 日本音響学会会員

<http://www.takahashi-kensetsu.co.jp>
info@takahashi-kensetsu.co.jp

エレクトロ

InterBEE2019 では、ヒビノグループのブースにて、INCITE プレゼンテーションスイッチャー、AMX TPControl アプリケーション「TPC-WIN-TPI」マルチ映像入力デモ、AMX スピーカーなどのデモを行った。

■ Incite デジタルビデオプレゼンテーションシステム「NCITE-813A」:NCITE-813 にパワーアンプを搭載したプレゼンテーションスイッチャーで、4K60 4:4:4 コンテンツに対応し、8つのインプット（4×HDMI、2×DXLite、2×RGBHV/VGA）に入力された映像を、2×HDMI アウトプット、1×DXLite アウトプットに分配出力する。

8x1:3 4K60 4:4:4 デジタルビデオプレゼンテーションスイッチャー

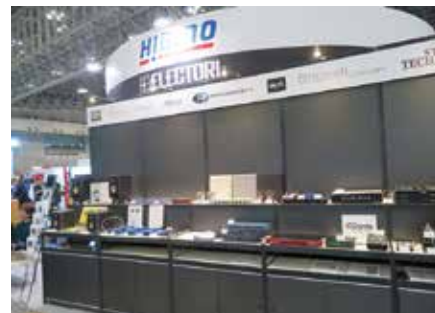


NCITE-813A

伝送、ウィンドウイング機能オーディオ DSP、フィードバックサプレッション機能、DriveCore アンプ)

主な特長は、4K UHD コンテンツをサポート/HDMI2.0、HDCP2.2 サポート/ スケーリング/ ウィンドウプロセッサ内蔵/BSS のDSP 内蔵/dbx のDSP 内蔵/ 独自規格であるDXLite により、4K60 4:4:4 コンテンツを70m まで延長可能/ 柔軟なインターフェイスオプション

■ AMX のコントロールシステム :1982 年の設立以来、AMX のNetLinx コントロールシステムは、オフィスや文教施設、官公庁などの設備業界向けに、最先端のICT テクノロジーと単純明快さをブレンドしたコントロー



ルソリューションを開発し、常に設備産業界をリードしてきた。コントロール、ホームオートメーション、映像配信などを含めた幅広いソリューションを抱え、信頼性、持続性、そして拡張性のあるシステムにより、様々な空間におけるAV 設備の機器制御やシステムの統合管理を担っている。AMX のシステムは、「タッチパネルコントロールシステム」を主軸として、デバイス制御の強みを生かした「IP 伝送器 SVSi」、そして会議室や教室の設備トレンドを追及した「スイッチャー/ ハドルコラボレーション」の3 カテゴリーから製品開発を行っている。会議室、ホームオートメーション、文教施設、ホテル、ネットワークセンター、エンターテインメント、ヘルスケア、放送設備など、世界中の様々な設備に採用されている。

三友

InterBEE2019 にて、映像制作に関わる効率的なワークフローを実現する製品や撮影用ペリフェラル製品を出展。撮影機材では、大判センサーをカバーするイメージサークルを持つ Leitz のシネマレンズをはじめ、DJI 製品、超小型の放送用カメラ Dream CHIP ATOM one を展示。また編集機材では、ハイエンドオンライン編集・カラー&フィニッシングシステム Grass Valley Rio 4K/8K のシステムを紹介した。

この他、8K 光 / 無線伝送のシステムなど、様々な機材の実働展示を行なった。

ORCA バッグ: ORCA は、放送や映画のプロフェッショナルに最適なカスタムバッグ



ORCA と PortaBrace バッグ類が並んだコーナー

やアクセサリを提供するために生まれた。全てのプロフェッショナルの仕事を簡単に、快適に、素早くこなせるようにすることが ORCA のモットーである。ORCA の研究開発チームは映画、音声、テレビ産業に30 年以上もの間携わっており、この経験が最適な機材バッグを提供することを可能にしている。

全ての ORCA 製品はその研究開発チームによって最先端の技術や道具を駆使して製造されています。その結果デリケートなビデオ、ライト、音声機材などを保護し、運ぶことができるケースを設計することが可能になっているとのこと。

最高峰シネマレンズ『Leitz』

日本初公開となる大判センサーをカバーする Leitz の新プライムレンズ



NEW・LEITZ PRIME/NEW・LEITZ ZOOM/ NEW・THALIA-T

・ M 0.8 ・ MACROLUX 114, 95 他



Grass Valley Rio 4K/8K

ハイエンドオンライン編集・カラー&フィニッシングシステム



<https://www.mitomo.co.jp/>



ニッキャビ

InterBEE2019にて、シンプルで低コストでありながら拡張性とデザイン性に優れたコンソールデスク「spaceRAIL」に「ウォールマウントフレーム」と「モニターアーム」を組み合わせた多面監視仕様としてより再現性の高い展示を行なった。

また、あらゆるシーンに対応可能なモジュール式コンソールデスク「cyber RAIL」やマルチモニターウォール「cyber WALL」、スタイリッシュでコンパクトな「cyber RACK」、サイネージスタンドや様々なツールキャリアとしても使える「cyberSTAND」などの「cyber series」を中心として、デザイン性を備えた樹脂ケース「HPRC レジンケース」、従来から映像・放送業界で多数採用されているブロードキャスティングラック「NEO Rack series」や静音ラック「SRC series」などのラック製品に樹脂性ダクト「オープンダクト」や床下配線の階層分けを可能とした

「アンダーフロアケーブルマネージャ」などのソリューション関連を組み合わせて展示した。



<http://www.niccabi.co.jp/information/exhibition/index.html>

■アラームファンユニット「AFUシリーズ」
新製品としてラック用排気ファンを最大6機搭載し、回転数低下等の異常時にアラーム出力を可能とした「アラームファンユニット」および対応オプションとして各ファンの回転数や電源、コネクタボックスの通電状態を監視し、異常時にはLEDランプの点滅とブザーによる発報を行い、どのファンまたはコネクタボックスによる異常なのかを一目で確認することが出来る1Uサイズの「アラームファンモニター」を同展にて初出展した。
なお、アラームファンユニットはよみうりテレビに87台導入の実績を持っている。



<http://www.niccabi.co.jp/products/option/afu/index.html>



ラック用排気ファンを6機搭載したアラームファンユニット



モジュール式コンソールデスク「cyber RAIL」を中心に、「spaceRAIL」を左に配して展示を行った



アラームファンユニットとアラームファンモニターをセットした状態で展示



1Uサイズ「アラームファンモニター」

K-WILL

- 2K/4K 画音監視「QuMax3000/FED」
(Full/Reduced Reference)



映像・音声監視ソリューションの中核製品であるQuMaxシリーズに新たに加わった4K 12G-SDI映像・音声監視ボード「PROBE 12G」を展示。2K対応PROBE 300シリーズと組み合わせることで、1台で2K/4K映像・音声監視を実現する。ITU-T J.144標準方式をベースに、画素・音声サンプルを直接比較することにより、より緻密な4K監視を実現する。

さらに、4K 12G-SDI対応の特徴量抽出デバイス「FED」(Feature Extraction Device)を初公開。コンパクトな1RUハーフラックサイズのこの装置は、2K/4K映像/音声の特徴量やANCデータを取り出し、最大12Gbpsの情報量を1Mbpsまでエッセンス化し、IPネットワークで監視地点まで送出(1筐体あたり2系統入力可)。監視地点では、映像や音

声の送信元や受信先から受け取った複数の特徴量を解析することで、遠隔地点間の伝送状態を、リアルタイムに監視することが可能となる。

- 4K/8K HDR 画質評価「VP4000」
(Full Reference)



「VP4000」は、2160 59.94pフルサンプリングの4K基準画像及び評価画像の時間軸を自動補正することで画素同士を比較し、輝度差分値Y_PSNRと共に、ITU-T J.144国際標準方式によるDSCQS(二重刺激連続品質尺度)をフレーム単位でリアルタイム計測(エミー賞受賞)。その評価精度は、ITU-R 500シリーズによる主観評価と同等で、さらに8K画質評価及びHDR対応へと進化した。ブースでは4K画像の画質評価をハンズオンで紹介した。

- 2K/4K 画音検査「ProQ4000」
(No Reference)

「ProQ4000」は、PCワークステーション



上で12G SDI、3G Quad SDIもしくは4Kファイルに対して、ブロックノイズ、ラインノイズ、プチ音等一瞬のノイズをリアルタイムで正確にとらえることができる、2K/4K対応映像・音声検査装置。ブースでは、1~2フレームのカクリやスキップフレーム、黒味やノイズ混入の検査とエラーキャプチャー機能



などを紹介した。



<http://www.kmw.co.jp/>

ヴァイテックグループ

ヴァイテックプロダクションソリューションズとヴァイテックイメージングは、InterBEE2019に共同ブースで出展した。

ヴァイテックプロダクションソリューションズ：Vinten、Sachtler、oconnor、ANTON BAUER、Autocue、autoscript、Litepanels など、多数のブランドをもつ同社では、一昨年度までの flowtech のモデルは、flowtech 75、flowtech 100 において、Vinten と Sachtler とが組み合わせたモデルが登場していたが、本展では OCONNOR の新しいヘッド Ultimate 1040 と組み合わせたモデルが新登場。これで、flowtech は Vinten や Sachtler のほか OCONNOR の3つのブランドが組み合わせられたラインナップとなった。

flowtech は革新的な高速セッティング機構、および厳しい使用環境を想定した耐久性を備える、まったく新しいカーボンファイバー製の三脚システム。撮影現場におけるワークフローの大幅な改善と、撮影の自由度の向上を可能とする数々の新開発テクノロジーが搭載されている。

ヴァイテックイメージング：マンフロットブランドのビデオ雲台・三脚・カメラバッグなどを中心に、取り扱いを始めた JOBY 小型三

脚、Lowe pro カメラバッグも展示。

ナイトロテックフルードビデオ雲台は、ビデオカメラの傾きに反発するカウンターバランス機構に、革新的なナイトロジェン（窒素ガス）ピストンを採用。一般的なバネを使用した機構に比べコンパクトなサイズで、強力かつ無段階のカウンターバランスを実現します。ナイトロテック N8 と N12 雲台（8kg と 12kg までの機材に対応）と、各種三脚とのキットをラインナップ。今回、マンフロット初のカーボン製ツインチューブ三脚も参考出品し befree シリーズのハイスペックモデル「befree GT XPRO」や、Syrp のモーションコントロールデバイス「Genie Mini II」を展示。

トラベル三脚 befree シリーズにマクロ撮影や俯瞰撮影に便利な 90° センターポール



flowtech の展示コーナー



機構を搭載したハイスペックモデル befree GT XPRO を新製品として出品したほか、無段階カウンターバランス搭載で話題になった Nitrotech の新シリーズを出展。

また、スライダに搭載してパンやティルト、タイムラプス撮影ができる Syrp の新バージョン Genie Mini II、ゴリラポッドに代表される JOBY からはアルミ軽合金を採用することで堅牢性を向上させ、2 本のアームで LED ライトなどのアクセサリの装着に対応したゴリラポッドの新モデルを出展。そのほかにも、Lowe pro のアウトドアフォトグラファ向けのバックパックや Vinten のスタジオペデスタル、Sachtler や OCONNOR の三脚などを出展した。



<https://www.vitecproductionsolutions.jp/>

富士フィルム

IntreBEE2019 では、各ジャンルのレンズコーナーを設けたほか、ブース内に 4K 大型中継車を展示した。

高倍率レンズコーナー：主に高倍率レンズを展示。新製品の 4K 箱型レンズ「UA107x8.4 AF」と「UA125x8」が国内初出展。オートフォーカスの合焦精度や高倍率ならではの画角を体感できた。

シネマレンズコーナー：フルサイズ対応ズームレンズ「Premista 28-100、80-250」を展示。望遠タイプ（80-250mm）はダンナードリーに搭載して展示を行った。

報道レンズコーナー：小型・軽量タイプの UA24X7.8 などをカムコーダーに搭載して出展。担いだ際のバランスや操作感をタッチ



& トライで確認できるデモを行なった。

また、2019 年 8 月に販売開始した同社初の望遠監視カメラ「SX800」を展示。40 倍ズームでの遠方撮影、防振性能、高速 AF が注目された。

スタジオ/中継レンズコーナー：ARIA、RBF を搭載した UA13X4.5 レンズや、寄れて引ける 4K レンズの UA18X5.5、UA27X6.5 などを出展いたします。クレーンや天吊りスタイルで展示することで、現場での操作感をイメージすることができます。

西尾レントオール 中継車コーナー：2019 年 12 月にレンタルを開始した、レンタル業界初の 4K 大型中継車を展示（写真左）。FUJINON 4K レンズが多数採用されており、中継車内からモニターチェックが可能。

X コーナー：ミラーレスデジタルカメラ最新モデル「FUJIFILM GFX100」や「FUJIFILM X-T3」と、X シリーズ専用シネマレンズ「FUJINON MKX シリーズ」を組み合わせた小型・軽量の撮影システムを紹介。

FP-Z5000 によるブース演出：世界初の「屈



曲型二軸回転機構レンズ」を搭載し、本体を動かさずにレンズの回転だけでさまざまな方向へ投写できる超短焦点プロジェクター「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」を使いブース演出を行った。



Z5000

タックシステム

Avid S6 およびDolby HT-RMU を用いたDolby ATMOS ステージにて、Dolby ATMOS ミキシングセミナーを行った。また、同ステージでは、Avid Technology 社から新しく発売となったAvid S4 コンソールも併設展示した。

<ADDER ALIF-4000 シリーズ>

Adder 社からは 4K 映像に対応した Adder Link Infinity 「ALIF-4000」シリーズが登場。このシリーズとしての新しいハードウェアは従来の機種をはるかに凌ぐパフォーマンスと将来性を持ったプラットフォームとして設計されている。初登場のバージョンですでに 4K60P 映像 2 系統を 1 台のユニットで伝送できるパフォーマンスを携え、ファイバー接続によって従来以上の切り替え速度とレイテンシーを実現している。画質に関してピクセル・パーフェクトなロスレス圧縮転送によってカラーグレーディングや CG 制作に完全に対応した唯一の IP-KVM システムと言える。アップデートにより、HDR への対応も予定されており、放送、映像スタジオ・システムにフォーカスしたロードマップを敷いている。なお、ALIF-4000 シリーズは、従来の Infinity システムとの互換性を有するため、システム全てを 4000 シリーズで

組む必要はない。

低解像度の VGA、1K、2K とった従来の Infinity シリーズの中に必要な部分だけ組み込むことが可能で、全体のシステムコストを抑えたシステムを実現することができる。

<Directout Technologies PRODIGY.MC>

多くの MADI インターフェイスを送り出してきた DirectOut Technologies 社からは、新たに登場した「PRODIGY.MC」を展示。「PRODIGY.MC」は、既存の「ANDIAMO2.XT シリーズ」をさらに発展させ、モジュール・スロット・タイプの I/O カードのセレクションによってスタジオの要求に合わせたコンフィグレーションを自由に組めるフレキシビリティを備えている。また、MADI インターフェイスだけでなく、ネットワーク・オーディオにも対応し、Dante、Ravenna、WSG の 3 種類のネットワーク・オーディオ・カードを選んで実装することができる。

<Yellowtec iXm Podcast >

非常に高性能なマイクゲイン・コントロール機能「LEA」エンジンを搭載したレコーダー内蔵のマイクロホン「iXm」に価格を抑えた「iXm Podcast」が登場した。どのような現場でも適正なマイクゲイン・コントロールによって歪まず自然なインタ



InterBEE2019 タックシステムのブース

ビュー収録が可能で、しかも収録操作は片手で OK。

<NTP Technology >

デンマークの SKAARHOJ 社の OEM によって NTP Technology 社から Penta シリーズ用のマトリクス・コントロール・ユニットが発売となった。Penta 内部のマトリクス・ルーティングの切り替えと必要な部分のレベル・コントロールをリモートすることができる。また、内部のコンフィグレーションによってブラックマジック・デザイン社製のビデオ・ルーターなども同時に制御することが可能で、スタジオでのライン切り替え、マシナールームでのルーティング、中継車での回線チェックなどに最適なオプションとなる。モデルは、EIA 1U と 2U の 2 タイプが用意されている。

武蔵/武蔵エスアイ

◇DCP-73 制御アプリケーションソフトウェアシステム [新製品]

DCP-73 は SONY XDCAM Station をコントロールする Windows アプリケーション。XDS のファイル操作のプラットフォーム GUI として使用可能。

- ・クリップの並び替えや送出が可能。
- ・Internal/PD/SxS のクリップ作成が可能。
- ・ファイルの転送が可能。
- ・最大 4 台の XDS の制御が可能。

◇MDC-74 マルチデバイスコントローラ



ディスクレコーダ、VTR のリモートコントローラ。

- ・カラー液晶を搭載
- ・4ポートの TC とステータス表示

- ・ファイル、CUE のリスト表示
- ・土設定可能な Pre Roll/Post Roll 機能
- ・LTC 入出力装備
- ・FF/REW は可変速可能
- ・NEXT/PREV 動作可能

その他の標準製品は以下の通り。

- ・MDC リーズ デバイスコントローラ
- ・DCP-1500 for EVS 動画ファイルソフトウェアシステム
- ・MCI シリーズ コントロールインターフェース

◇MVXシリーズ マルチチャンネルビデオレコーダー

MVX シリーズはマルチチャンネルビデオディスクレコーダー (サーバー)。モデルにより 1 入力 1 出力から 4 入力 2 出力のラインナップがある。

◇ViBox8 All In One Live Production System

SimplyLIVE 社製 ViBox は、複数の映像音声入力の同時収録、ビデオミキシング/スイッチング、オーディオミキシング、ビデオキヤー、収録中のビデオの再生及びスロー再生 (撮って出し再生)、ハイライト編集、ビ



デオク リップのロギング機能などを 1 台のビデオサーバーに集約した All In One Live Production System である。

◇Qx12G! QxIP IP、4K/UHD+HDR の信号発生器/分析ツール

Qx12G! QxIP は英国 Phabrix 社の製品で SDI 及び IP の信号発生器及び信号測定/分析器。SD から 12G-SDI 及び IP の各信号の各種測定結果を LCD 画面上に一覧表示できますので回線チェックや、送出映像の監視に最適。

4K/UHD までの SDI (12G/6G/3G/1.5G-SDI) を基本に IP の機能を追加でき、ハイブリッドな SDI/IP のテスト環境を構築できる。

